

## 1 目指す学校

東京都立武蔵野北高等学校は、人格形成と身体形成の調和がとれた全人教育を組織的に行い、さわやかな青春を創出し明るく活気のある学園生活を過ごし、確かな学力、豊かな心と健やかな体、社会有為な人材を育成して、保護者や地域社会から信頼され、在校生や卒業生の誇りとなり、小・中学生が憧れる学校を目指す。

### (1) 確かな学力を育成する。

進学指導推進校として、知識基盤社会の生きる力の育成と、生きる力を支える教科指導を充実させ、生徒が目標とする大学等への進学を実現させる。

### (2) 豊かな心と健やかな体を育成する。

学校行事や部活動を大切にし、仲間と協力して目標を達成して感動する体験と共に健やかな体と高い技能の向上を通して、友情を高め社会性と豊かな情操を育てる。

### (3) 社会有為な人材を育成する。

常に目標を高くもち積極的に自己の可能性を迫及して果敢に挑戦する生徒を育て、国際社会のリーダーとなる人材を育てる。

人権尊重の理念を正しく理解し、人としての基本的なルールやマナーを身につけさせて豊かな人間性を育成する。

## 2 中期的目標と方策

### (1) 学習指導

校舎の大規模改修に対応して、教育水準の維持と授業の工夫・改善を行い、学習に対する興味・関心を引き出し、生徒が自ら進んで意欲的に考え、学習する態度を育成する。

講習や補習等の機会を多くし、生徒の能力や特性に合った学習指導の充実を図る。

### (2) 進路指導

入学から卒業までの3年間の見通した指導計画を立案・実施し、生徒が進路に目標をもてる指導を推進して、生徒の第一志望が実現するよう進学実績を向上させる。

### (3) 生活指導

学校の規則を守り、礼儀、ことばづかいを正し、身だしなみを端正にし、公共心を育て、地域から信頼される基本的生活習慣を確立させる。

学校保健委員会を活用して、規律ある日常生活や健康と安全に配慮する心を育てる。

### (4) 特別活動・部活動

合唱祭、体育祭、文化祭等の学校行事や部活動の活性化によって、一人一人の生徒に活気と感動を与える。

「より高き」をめざす積極姿勢を育て、困難を乗り越え、達成感や充実感の得られる指導を行い、知力、体力の向上と集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする実践的な態度を養う。

### (5) 募集・広報活動

学校教育と家庭教育の調和を重視し、高大連携や地域の教育力を積極的に活用する機会を設定して、知性を高め幅の広い人間形成を推進する。

開かれた学校を推進して教育活動を積極的に発信し、近隣中学校や地域への理解と

連携を深め、信頼される高校とする。

(6) 経営・組織体制

生徒による授業評価の活用による授業改善に向けた校内研修の充実を図る。

企画調整会議や学校運営連絡協議会を活用して、組織的・継続的な運営を行う。

校長の自律経営を支える経営企画型事務室として経営企画室の機能を高め、事務局機能、サービス窓口機能、渉外機能を充実させる。

校舎改修に伴う学習環境の整備と学習条件を整備するための計画的な予算編成をして進学に向けた学習活動を推進する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 年間授業計画・評価の観点等を年度当初に生徒に示し学習意欲をもたせる。

イ 授業改善の一環として生徒による授業評価を実施する。

ウ 連携大学などの協力を得て体験的活動を実施し、早い時期に明確な目標を定められるよう工夫する。

エ 学校行事を重視し生徒の個性伸長や社会性を育成し、その充実を図るとともに、中学生や地域に公開する。

オ 部活動を奨励し、全員が部活動に所属して活動できるよう指導する。

カ 登下校時の交通安全と校舎改修に伴う安全指導を徹底するとともに、健康で安全な学校生活の充実を目指す。

キ 学習環境について考え、自ら進んで校舎内外の清掃美化に努め、ゴミの分別を徹底し、地球規模での環境問題を考える習慣を身につけさせる。

ク 地域行事やボランティア活動を推進し、地域や保護者と連携した開かれた学校づくりを推進する。

(2) 重点目標と方策

ア 進路指導の充実と現役合格率の向上

第1学年で連携大学の講座聴講や実習体験、第2学年で大学模擬授業等を実施し、希望大学進学や大学卒業後の進路を見通して目標を定めさせ、現役4年制大学進学率を75%以上にする。

シラバスを発行して授業内容等を生徒に周知し、学習意欲を向上させる。

イ 学校行事・部活動への積極的な参加と充実

学校行事に生徒を積極的に参加させ、協力し合って一つのことを完成する体験を積みせると共に、部活動に90%以上参加するよう指導し、部活動を支援する。

ウ 開かれた学校運営と学校の広報活動の充実

教育内容を保護者や地域に発信し、学校の外部評価の結果を学校改善に生かす。

教育内容を近隣中学校や予備校など100校以上へPRを行ない、来校者の増加を図る。

通学路の美化活動やゴミのリサイクルを図る。

エ 自転車乗車指導の徹底

登下校時における危険箇所の確認をおこない、自転車の安全点検・運転マナーの向上を図り、自転車事故0(ゼロ)を目指す。

オ 校舎の大規模改修が円滑に行えるよう条件整備を行い、生徒が安心して学業に専念できるよう努める。